

奈良のむかしばなし

第62話

弁慶の力釘

文・山崎しげ子

あった岩に、全身全霊の力を込めて親指で釘二本を打ち込んだ。弁慶の形相と怪力を目の当たりにした追手たちは、蜘蛛の子を散らすように逃げ去ったそうだ。

吉水神社の境内に今も「弁慶の力釘」が残されている。

平安時代の終わり、源氏と平氏の戦いで、義経は、鶴越えの奇襲や壇ノ浦の合戦で平氏滅亡に大きな手柄をたてた。だが、その後頼朝に追われ、各地を流浪して吉野山へ。

昔、義経の由来に弁慶という怪力無双の大男がいた。義経一行は兄の源頼朝に疎まれ、彼の刺客に追われていた。義経一行が吉水院にかくまわれていると知った頼朝の追手は、建物の外から大声で喚いた。

「義経、出てまいれ！」

それを聞いた弁慶は、顔を真っ赤にして、そばにあった釘二本を抜いて表に出るや、大声で叫んだ。

「やあやあ、我こそは弁慶なり。力試しをいたそうぞー！」

そして、追手たちのご真ん中に

らは、春は「一目千本」の見事な桜が望めるが、晩秋はことにその紅葉が美しい。吉野山全山が華やかな桜紅葉に包まれる。



物語の場所を訪れよう

吉水神社(吉野町吉野山)へは…
近鉄吉野駅より徒歩約2.6km



問 吉水神社 ☎0746-32-3024

歴史上の人物 ゆかりの地

吉野は、源義経が弁慶と身を潜めた場所であり、後醍醐天皇による南朝の始まりの地でもある。

吉水神社は、約1300年前に役行者により創建されたとされ、日本

住宅建築史最古の書院として世界遺産に登録されている。後醍醐天皇が延元元年(1336年)に南朝を興したときには、吉水院(吉水神社)が皇居となった。書院内では、義経や後醍醐天皇ゆかりの展示がされている。境内の岩には、弁慶が二本の釘を打ったとされる釘跡もある。

